

「ひむかジュニア運動」

をめざして

「新老人の会」(日野原重明さん、105才)



75才以上を「新老人」と呼ぶ
74才以下は「ジュニア」

「この運動を国民的な運動にしたいのです。老人はリタイアすればいい、という今の考え方では日本は行き詰まってしまう」

「老人には生き生きと生きる権利と、自分たちにできることをやる使命があります。周りから、何かをしてもらうだけでなく、自ら行動するのです。社会もそうした老人たちを温かい心で包み、交わりの中に迎え入れなくてはなりません。新老人運動はそのための運動なのです」

74才以下は

「ジュニア」

と呼ぼう！

それを

「ひむかジュニア運動」

にしませんか！！

「ひむかジュニア」への期待

74才以下の退職した人たち

* 特に、「団塊の世代」の方々

* 仕事を続けている人も・・・、 暇にしている人も・・・

学校へ出向いて
子供たちに、経験を語る

社会の第一線は退いても

社会に何らかの「役割」

を持つことの重要性

次世代を担う子供たちに 伝えるべきこと

それは、「働く喜びと苦勞」

それを、「大人が本気で語ること」

- 産業人としての誇り
 - 匠の技の素晴らしさ
 - モノづくりのおもしろさ
- などを・・・

なぜ、「学校」なのか？

1. 子供たちには、
「社会の力」が必要
2. 子供たちから、
元気をもらえる



学校が変われば
地域が変わる
そして社会が変わっていく

「自分とは違う隣人が抱える問題を、
お互いに思いやる力が培われる」





地域の大人自身が学ぶ場になる

- 英語の授業ができるとか、昔の遊びを見せることができるとか、何か取り柄がないといけないのではない
- 地域のおばあちゃんが、毎日教室に顔を出している

「校長先生、これ、自分の修行やわ」

「学校」と「地域の大人」が、
ウィン・ウインの関係に

お年寄りと子供たちとの
交流から生まれるもの

地域の子供たちを育てる
ことに関わることで
自らも健康になる

「福井県」がトップ



* 世帯収入が高い
共働きが多い
3世帯同居が多い
持家比率が高い

* 全国学力テスト トップ
全国体力テスト トップ

福井県 ある町の
小学3年生に

「この街の宝は何？」

元気な

お年寄りが

いっぱいいる」

元気なお年寄りがいっぱい！

「学校支援地域本部ボランティア」

- 通学の安全見守り
- 地域の祭り、地元の料理、地域の絆を伝える
- 学校行事の応援・手伝い

「放課後子供教室」

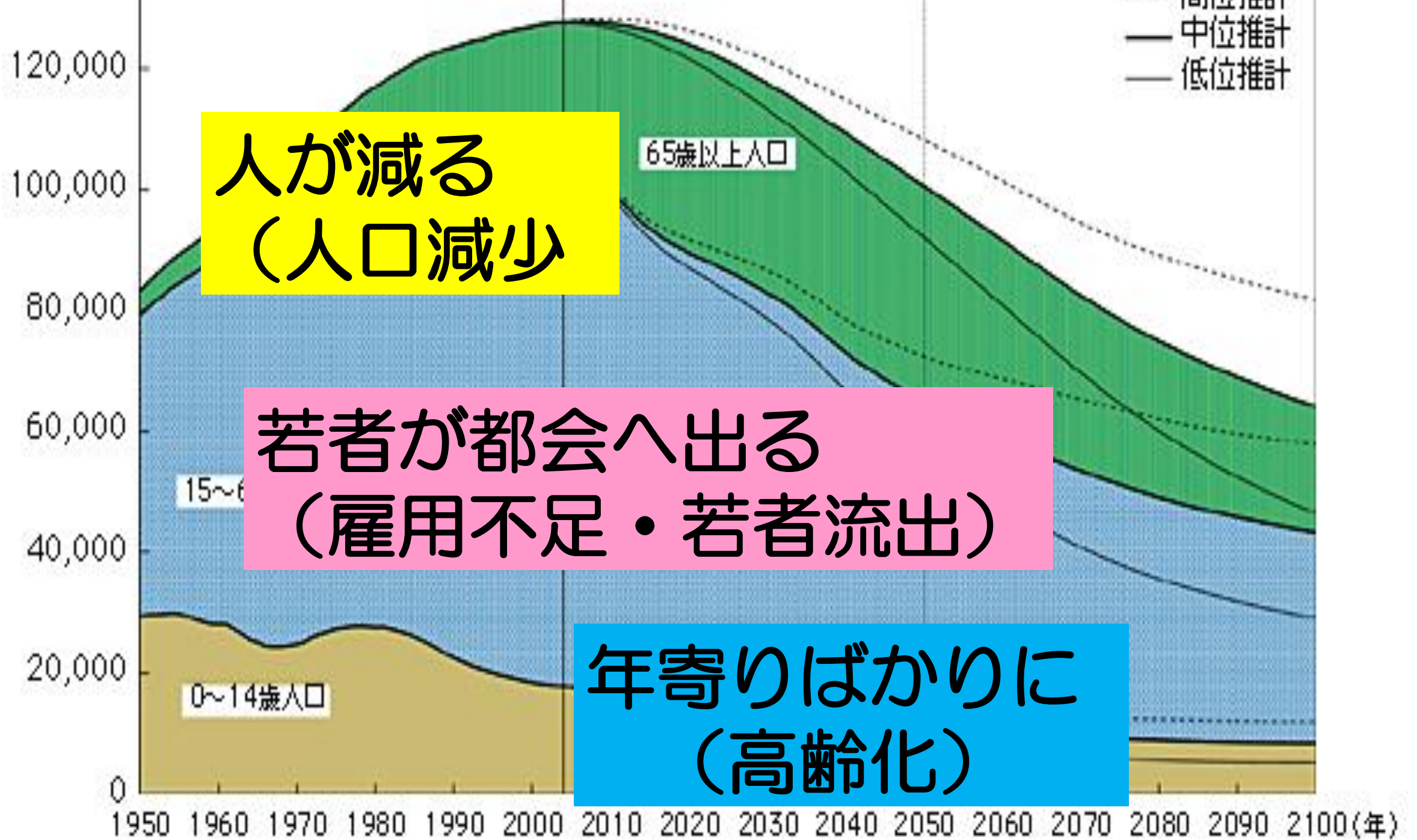
- 保護者や地域住民の方々が、学習や体験・交流活動を提供

「はげまし隊」

- 中学1年生の「数学」授業の支援

⇒元気なお年寄りが

役立ち感を感じる生活、充実した生活、生きがいのある生活



宮崎の大人たちが
宮崎で働き・暮らす魅力を
子供たちに語り伝える

「ひむかジュニア運動」

を、起こしましょう！

「日向の大人はみな子供たちの先生」

- ・新人も
- ・中堅の人も、管理職の人も
- ・社長さんも
- ・お店を経営している人も
- ・農林水産業の人も
- ・仕事をリタイアした人も・・

「よのなか先生」に

是非ご登録をお願いします